



東京工芸大学・風工学共同研究拠点・公開研究会のご案内

## 「南アジアにおける強風災害の実態と被害軽減に向けた研究の現状とこれから」

### 【趣旨】

インドやバングラデシュなどの南アジアは、サイクロンや竜巻などの激しい気象擾乱による強風災害が頻発する世界有数の地域の一つであり、過去幾度となく甚大な被害を受けてきた。これまで被害軽減に向けて、サイクロンや竜巻などの大気現象そのもののメカニズムの理解に関する研究に加えて、これらの強風災害をいかに防ぎ備えるかという防災の観点からも研究がなされてきた。しかしながら、被害軽減に向けて、まだまだ克服すべき課題が数多く残されている。

本研究会では、南アジアの強風災害の実態、発表者らのこれまでの研究の成果、残された問題とその解決に向けた今後の研究課題についての発表に加え、聴講者との双方向の議論を通して南アジアにおける強風災害の軽減に資する研究の深化を図りたい。

林 泰一（京都大学東南アジア研究所）

山根 悠介（常葉大学教育学部）

開催日時：2016年2月17日（水） 13:00～14:10

開催場所：東京工芸大学 厚木キャンパス 本館6階大会議室

参加申込：当日会場受付にてお申し込みください。事前お問い合わせは、東京工芸大学 風工学研究拠点  
事務局 TEL：046-242-9658 までお願いいたします。

### プログラム

13:00～13:10 趣旨説明

山根 悠介（常葉大学教育学部）

13:00～13:30 日本と南アジアの強風災害の実態とその軽減について

林 泰一（京都大学東南アジア研究所）

13:30～14:00 バングラデシュにおける竜巻等の突風災害軽減に向けたこれまでの研究と今後の課題

山根 悠介（常葉大学教育学部）

14:00～14:10 質疑応答

司会：山根 悠介（常葉大学教育学部）